

## 「コミュニティ」の再生

選挙の関係でお休みしていた「市長どっとコム」を今月から再開します。

まず初めに、去る3月11日に発生した東日本大震災により、甚大な被害を受けた皆様に心からお見舞いを申しあげるとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りします。

報道等で見られたこの地域の方たちの純朴さや我慢強さ、それにお互いに助け合い、どうにか明日への希望を見出そうと懸命な努力をする姿は、世界に大きな感銘を与えました。同時に、極限に近い厳しい状況において、人と人とのつながり、地域の絆というものが少しでも残されていることがいかにありがたいものであるかを、強く印象づけられました。これからの本格化する被災地の復興も、このコミュニティの再生を抜きにしてはありえないと思っています。

欲求段階説を提唱したマズローは晩年、最上位としていた「自己実現」の欲求のさらに上位に「自己超越」の欲求があり、人間はさらなる達成感を得るために他人を助けたいと思うようになると言っています。この未曾有の大震災に対して「がんばろうニッポン」の掛け声のもとに、大勢のボランティアが被災地に入り、国民が一丸となって復興へ向け協力しようとしている現在の状況は、「ニッポンというコミュニティ」の求心力が新しい形で戻ってきたと言えるのかもしれませんが。

私は、今回の高松市長選挙に当たって「コミュニティの再生」という課題を、マニフェストの冒頭に掲げました。『現在の都市を覆っている危機は、都市における人間の絆としてのコミュニティの崩壊にある』（注1）と言い切る識者もいます。都市化が進み、人間関係が希薄となり、従来の「農村型コミュニティ」は崩壊しつつあります。これからの『日本社会における根本的な問題は、「個人と個人がつながる」ような「都市型コミュニティ」ないし関係性というものをいかに作ってイけるか、という点に集約される』（注2）との指摘は的を射ています。市内に44ある地域コミュニティ協議会の活動を中心に、ソフト、ハードの両面で関連施策を積極的に展開し、真の「コミュニティを軸としたまちづくり」を推進してまいりたいと思います。

（注1）「ポスト工業化時代の都市ガバナンス—その政治経済学— 神野直彦」（35頁）

＜岩波講座・都市の再生を考える2＞

（注2）「コミュニティを問いなおす 広井良典」（18頁） <ちくま新書>